

① 業務担当はどのように振り分けられていますか？

→職員の配置・異動等については、各職員の適性・意欲及び部署からのニーズを見極めて実施しています。加えて、出産・育児・介護・病気などの職員の個別事情を考慮しています。採用から主任になる前までの若手職員の場合は、広く本学の業務及び部署を経験できるように、概ね2～3年を目安としてジョブローテーションを実施することが基本です。必ずしも希望通りになるとは限りませんが、本人の希望を聞く機会として身上調書の提出を毎年1回設けていますので、希望部署があればそちらで要望を伝えることが可能です。

② 一時的に疾病で業務ができなくなった場合、病気休暇等の制度はあるのでしょうか。

また、過去に病気休暇を取得された方はいるのでしょうか。

→ケガや病気の療養のため勤務できない場合、病気休暇を取得することが可能です。業務上又は通勤途上によらない私的な傷病による病気休暇は連続90日取得でき、その後も療養が必要な場合は病気休職の制度があります。疾病により働けない状況になることは誰にでも起こり得ることですので、安心して治療に取り組むことができるような体制を整えています。

③ 社会人枠及び遠方から受験を考えているのですが、オンライン面接のご予定はございますか？また、採用予定日の調整は可能でしょうか？

→今年度の採用試験については、面接は対面を原則に考えていますが、最終面接以外の場合は、必要に応じてオンライン面接にも対応したいと考えていますので、ご相談ください。採用予定日について、独自試験は既卒の方は8/1の指定日での採用となりますが、法人試験の場合は調整しながら決定する形となります。

④ 2025年卒の新卒でもマイナビ転職から独自採用試験への応募は可能ですか？

→独自試験は新卒・既卒にかかわらずご応募いただけます。既卒の方は2024年8月1日採用、新卒の方は2025年4月1日採用となります。

⑤ 留学生支援を行う業務はありますか？あれば具体的にどのような業務ですか？

→事務組織としては、学務・国際戦略部グローバル推進課が留学生支援を総括しています。留学生向けプログラムに係る入学選抜から在留管理等の渡日手続き、奨学金に関することや留学相談の業務を行います。その他、各学部や大学院の学務担当の場合も、留学生に身近

な存在として窓口対応等、留学生支援をすることがあります。

⑥ 大学として、特に研究に力を入れているということがわかりました。一方で、弱みや現状の課題などはありますか？

⑦ 業務に取り組んでいる中で挑戦すること（課題や改善など）はございますか。

→本学には医学部がないため、医工連携の実装化を学内だけで推進できないことは研究面での課題だと考えています。また、世界水準の大学を目指すために、研究力のある研究者を呼び込みたいところですが、物価の高騰もあり資金面では課題が多いです。そこで、課題に対する工夫や、メリットに変える方法を色々と考えています。

具体的に研究面では、クロスアポイントメントという雇用制度等を用いて、企業や海外の研究者と連携した研究を進めています。医学部がないからこそ県内の他の研究組織や医療機関と連携しやすいという側面もあります。資金面では、資産運用や債権の発行など、経営学部の研究者と連携しながら、新たな取組を始める可能性があります。

⑧ 地域の方々や企業との連携について、具体的にお話を伺いたいです

→地域、産学官連携について、担当している事務組織としては、研究・学術情報部の研究推進課と産学・地域連携課となっており、教員と連携しながら進めています。

多くの取組については、是非以下の URL をご覧ください。

[横浜国立大学 産学官連携ページ \(ynu.ac.jp\)](http://ynu.ac.jp)

[横浜国立大学 研究推進機構 \(ynu.ac.jp\)](http://ynu.ac.jp)

[横浜国立大学 地域連携推進機構 \(ynu.ac.jp\)](http://ynu.ac.jp)

⑨ 他の大学と比較し、貴校の一番のアピールポイントはどちらの点になりますか。

→神奈川県唯一の総合国立大学であることだと思います。世界に開かれた日本の窓口として近代化・国際化を先導してきた横浜の地域性に根ざした理念のもと、文理融合・多角的な視野から時代の変化に対応した教育研究を推進しています。